

神奈川県立山北高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 山北高等学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和6年7月2日(火) 15:30~17:00
開催場所	山北高等学校 A棟2階会議室
出席者	有識者、関係行政機関の職員、地域住民、保護者、当該県立学校長と職員
会議資料	1.山北高等学校グランドデザイン 2.令和6年度(2024年度)学校要覧 3.山北高等学校の探究 4.令和6年度(2024年度)進路の手引き 5.私費会計令和5年度決算報告及び令和6年度予算概要案
議事録	<p>【次第3:校長挨拶】 ・コミュニティスクールの意義について認識を共有し、課題解決に向けて協働していきたい。 ・業務多忙化の中、教員と子供たちの関わりをどのようにして深めるか、働き方改革を進めつつ、共に考えていきたい。そして本校の継続に繋げたい。</p> <p>【次第5:協議】 (1) 学校経営方針について(校長より) ※資料1、2 ○グランドデザインについて ・「5つの力」を育てる「山高のリソース」をもとに学校評価の目標設定がなされた。 ・生徒指導から生徒支援に重きを置いた教育相談を展開していきたい。 ・引き続き、地域をテーマとした探究活動の活性化、進路実現に向けて取り組んでいく。 ○今後の沿革について ・今年度11月頃に75インチ大型電子黒板が各教室に配置される。 ・電子機器を用いた保護者による欠席連絡システムを導入する。 ・来年度から体育館改修工事が始まる。(1年余り体育館使用不可となるため、その代替を検討している。)</p> <p>(2) 学校教育計画及び学校評価報告書について(各グループより) ※資料2、4 ○教育課程、学習指導について(学習支援グループより) ・生徒の主体性を重視した学習活動を展開していきたい。 ・マークシートの活用等、教員のICT技術を高める校内研修を行い、学習支援に繋げていく。 ○生徒指導・支援について(生活支援グループ、生徒会指導グループより) ・身だしなみ指導等により、日常生活における規範意識を高めていきたい。 ・SC、SSWとの連携、サポートドックの活用により、教育相談体制を強化していく。 ・部活動加入の推進、委員会活動の活性化により生徒の主体性を育む。 ○進路指導・支援について(キャリア教育グループより) ・生徒一人ひとりが進路実現に向けて主体的に取り組むことができるよう、ガイダンスを充実させる。 ・地域の資源を活用し、就職活動を支援する。 ○地域との協働について(広報連携グループより) ・山北中学校との協働や、地域における山北高校の位置付けを模索していきたい。 ・未病、地域防災に限定せず、地域をテーマとした探究活動を行っていく。 ○学校管理、学校運営について(教頭より) ・ソフト面とハード面の改善によりワークライフバランスを見直していく。</p> <p>(3) 県指定事業について(広報連携グループより) ※資料3 ・新たな取組として、山北町に係る6つのテーマを設定する。 ・2学年と3学年の取組みに繋がりを持たせることにより、次年度の活動へ視野を広げていく。 ・町役場での活動等、町による支援の活用により、テーマの実現性が高まると考える。</p> <p>(4) 私費会計令和5年度決算報告及び令和6年度予算概要案について(副校長より) ※資料5 ・教育活動援助費会計の状況はその年の部活動成績を反映したものになる。</p> <p>(5) 委員から意見聴取 ○有識者より ・かながわ子供サポートドックとは何か。 ⇒回答「9月に県から委託されるアンケートに対する生徒の回答により、支援が必要と判断された生徒を教育相談へ繋げる取組である」 ・山北町に関するテーマ学習とは、以前に取り組んでいたマイプロジェクトのようなものか。 ⇒回答「マイプロジェクトのように個別によるテーマ発表を行う。その後、同テーマによるグルーピングがなされ、グループとしての活動に発展していく取組である」</p>

・教員の働き方改革が高校教員を志望する人の支援に繋がると考える。

○関係行政機関の職員より

・幼小中を通した山北に関する学びを、高校の学習活動に活かしてほしい。

・就職活動を手厚く指導し、進路実現を支援していることを評価している。

・「スポーツの山北」の視点から、地域による部活動への関わり等、地域連携の活性化が期待できる。

○地域住民より

・地域が学校の活動を応援できる場の提供があるとよい。可能な範囲において、文化祭などの学校行事の日程が周知され、地域との新たな繋がりが生まれることを期待する。

○保護者より

・山北町に関する探究活動において、テーマ設定の自由度が生徒にとって高い、との印象を受けている。

・グループ内で皆の意見をまとめたり、1つの方向に探究を進め、課題解決策を見出すことは難しいと想定されるが、生徒間の話し合いを通してクリアしてほしい。